

東京女子医科大学 防災マニュアル



平成25年度自衛消防訓練審査会
男子チーム(敢闘賞)・女子チーム(敢闘賞)

学校法人 東京女子医科大学

<目 次>

1. 自衛消防隊員の役割	1 ページ
2. 本学の自衛消防組織図	2 ページ
3. 火災発生時の対応マニュアル	3 ～ 4 ページ
4. 通報連絡班	5 ページ
5. 初期消火班	
(1) 消火器による消火活動	6 ～ 9 ページ
(2) 屋内消火栓による消火活動	10 ～ 12 ページ
① 1号消火栓の操作方法	
② 消火用散水栓(補助散水栓)、2号消火栓の操作方法	
(3) その他の設備について	13 ～ 14 ページ
① スプリンクラー設備	
② 排煙設備	
6. 避難誘導班	15 ～ 16 ページ
7. 大地震発生時(震度5弱以上を対象)の対応	17 ～ 19 ページ
8. 安否確認、災害時伝言ダイヤル	20 ページ
9. 火災・大規模災害発生時の河田町キャンパス 部門別本部設置場所など	21 ページ
10. 避難場所地図 (1)河田町キャンパス一時避難場所 (2)新宿区広域避難場所	22 ～ 23 ページ
11. その他	
・火災、大規模災害発生時の緊急連絡網(勤務中)	24 ～ 25 ページ
・河田町キャンパス消防用設備一覧	26 ～ 27 ページ
・夜間・休日などの緊急連絡先等	28 ページ



1. 自衛消防隊員の役割

－火災は早く発見して小さいうちに消火する－

消防法では、大学（非特定用途防火対象物）や病院・診療所・百貨店（特定用途防火対象物）等のように不特定多数の人が利用し、又、多数の人が勤務している防火対象物は、消防用設備等の設置が義務付けられ、管理権原者（本学は理事長）に対して、防火・防災管理の義務を課しております。

また防火防災管理者を定め、当該防火対象物についての「消防計画」を作成し、火災予防と万一、火災・災害が発生した場合でも、被害を最小限にとどめるよう、自主防火・防災管理の義務付けと管理体制強化のため自衛消防組織の編成や訓練等に関する事項を定めています。

自衛消防隊の中心的任務は、通報連絡・初期消火・避難誘導となっています。

< 通報連絡班 >

- ・ 災害時の発生状況の確認、情報収集
- ・ 防災センターへの通報、関係者等への連絡
 - 若松町側（総合外来センター1階） 内線短縮 111番
 - 河田町側（中央病棟1階） 内線短縮 112番
 - （本部／女性生涯教育支援センター、看護学部、
先端生命医科学センターからは 内線短縮 5111番）
- ・ 隣室および上階や隣棟への連絡
- ・ 真火災時は、（外線“0”発信後）119番通報する。

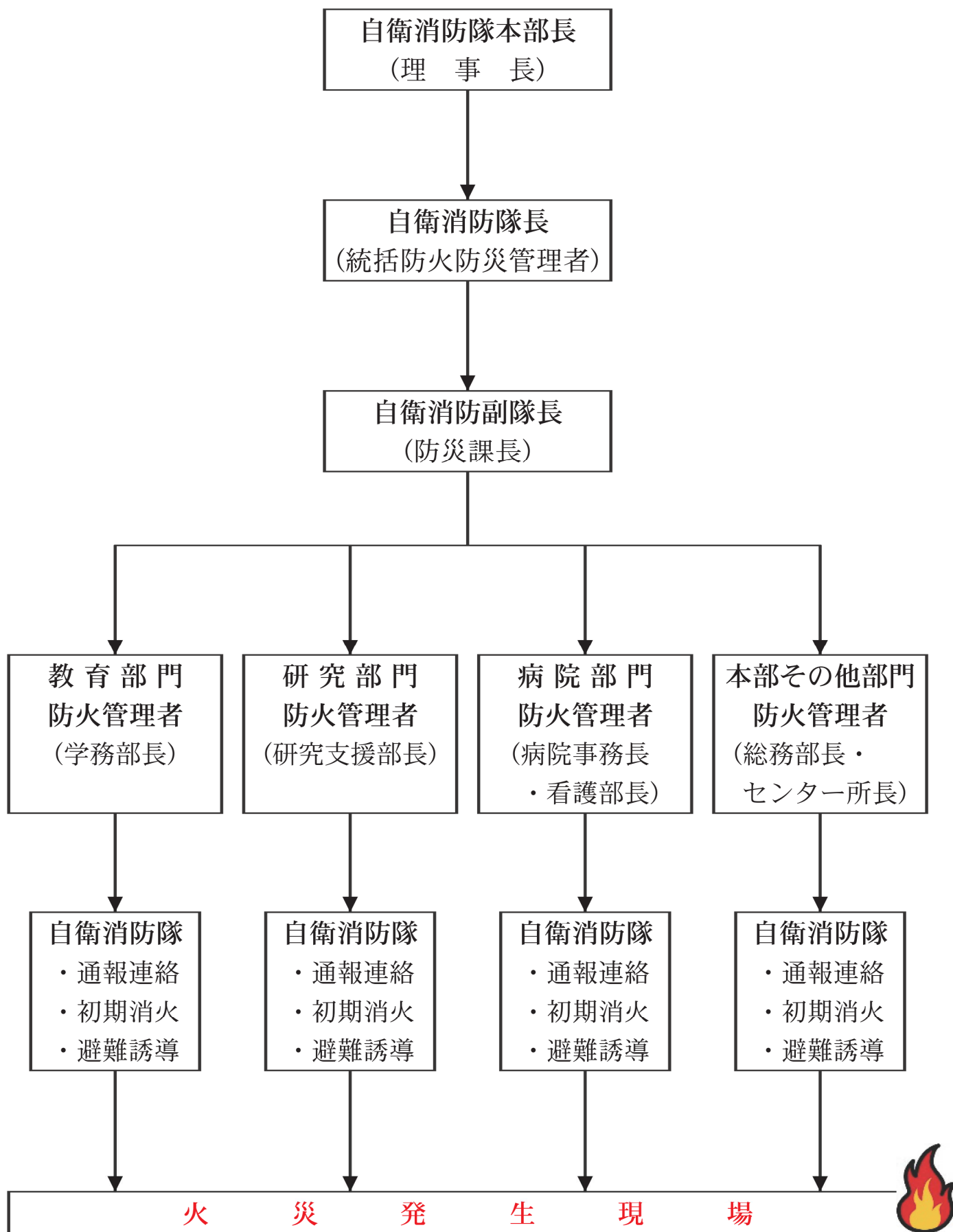
< 初期消火班 >

- ・ 出火場所の確認、消火器、屋内消火栓（消火用散水栓等）による初期消火活動

< 避難誘導班 >

- ・ 在館者の誘導、人員の確認
- ・ 非常口の開放、避難後の開口部の閉鎖
- ・ 避難器具の設定
- ・ 避難場所への誘導、逃げ遅れの有無の確認
- ・ 在館者のパニック防止措置

2. 東京女子医科大学 自衛消防隊組織図



3. 火災発生時の対応マニュアル

Ver. 6 : H 26. 4 修正

火災を発見した場合の措置	火災報知器が発報した場合の措置
<p>① 通報連絡 大声で火事であることを周囲(出火階・直上階)に知らせる。 ・地下が出火の場合は地下全域と1階にも知らせる。</p> <p>② 非常ベル(火災報知機)を強く押す。 もしくは、非常電話を使用する。</p> <p>③ 防災センター(短縮 111 番 短縮 112 番)と消防庁 119 番に通報する。 (※本部/女性生涯教育、看護学部、先端生命医科学からは、短縮 5111 番)</p> <p>④ 夜間・休日等においては 管理当直者(日直・夜勤師長 内線 35162、PHS 28972)に連絡する。</p>	<p>① <u>非常放送等を聞いた職員は、火災が疑わしい場合、(自ら 119 番通報し、)防災センターに連絡し、指示を待つ。</u></p> <p>② 現場に所在する者全員で分担し、 真火災であるか誤報であるかを確認する。</p> <p>③ 現場確認にあたっては、煙が見えない場合であっても、安易に「火災ではない」と判断することなく、機械室、ダクトスペース等の隠れた部分を見落とさないようにする。</p> <p>④ 現場確認者は、結果を防災センターに通報する。 ※ 真火災であった場合の措置は、以下のとおり。</p>
<p>⑤ 初期消火 現場に所在する者は、消火器・屋内消火栓等により消火活動を行う。 (漸次、自衛消防隊・警備員・保安課員が増強)</p> <p>⑥ 避難誘導 出火階と直上階の患者(在所者)を優先的にする。階段を利用して、1階の一時避難場所に誘導する。<u>エレベーターは使わないこと。</u> また水平移動が可能であれば、別棟へ誘導する。 (例：中央病棟⇄東病棟) 逃げ遅れた者がいないかを確認後、 <u>延焼を防止する為、最後に必ず防火戸を手動で閉めて退避する。</u></p> <p>⑦ 消防署・防災センター等の指示 その後の措置については、消防および防災センターの指示により活動する。</p>	

・非常ベル(火災報知機)を押すと、初期消火に必要な3動作が同時に行われる。

- ① 防災センター ベル鳴動
- ② 建物全館(出火階・直上階のみ一部有)非常放送又はベル鳴動
- ③ 消火栓ポンプ 起動

発報時の防災センター要員の対応

① 真火災であるか否かの確認

- 防災センターにおいて、自動火災報知設備の受信機に火災表示を認めた場合は、直ちに管轄する警備員を現場に派遣させるとともに発報現場に電話連絡する。
- 防災センターに勤務員(保安課員)が複数所在している場合は、1名が無線機等を携行し、現場に急行し、真火災であるか否かを確認する。

② 真火災であった場合の措置

- 真火災であった場合は、直ちに(外線“0”発信後)119番通報するとともに防火管理者に報告する。
- 火災の状況によっては、非常放送設備により避難等の必要事項を放送する。
- 「火災、大規模災害発生時の緊急連絡網」により大学、病院関係者に報告する。

<参考> 非常ベル (火災報知機) 非常電話 消火器 屋内消火栓



(第1病棟)



(中央病棟・東病棟)

- ・非常ベル (火災報知機)
- ・非常電話
- ・消火器
- ・消火用散水栓

- ・消火栓ポンプ起動専用ボタン
- ・非常電話
- ・屋内消火栓 (1号消火栓)

4. 通報連絡班

- ・ 情報収集を行う。
- ・ 火災の発見者は、
（外線“0”発信後、）119番通報
及び 防災センター（総合外来センター
短縮 111番、または中央病棟 短縮 112番）
へ状況等を通報する。
（※注 本部／女性生涯、看護学部、先端生命
医科学 TWIns からは、短縮 5111番へ）



- ・ 通報は、慌てずダイヤルし、次の通報内容を正確に言う。
 - ① 「火事です。」と火災である事を伝える。
 - ② 出火場所（**所在地** 新宿区河田町 8-1、又は若松町 3-1 他、
建物の名称・階数 ○○病棟○階△△部屋）
 - ③ 何が燃えているか。 また その延焼程度。
 - ④ 逃げ遅れの有・無
 - ⑤ 危険物の有・無 などを報告する。
- ・ 携帯電話や PHS での通報の場合は、その旨を伝える。
（携帯電話等は、中継基地などの関係から災害発生地域を管轄する消防本部以外へ通じる場合があるため）
- ・ 建物の中にいる人に火災が発生したことを知らせる。
（「火事だー！！」と大きな声で叫ぶ。）（消防計画より抜粋）

＜自衛消防審査会風景（牛込消防署にて）＞



＜自動火災報知設備＞



＜火災通報専用電話機（左）＞



（右は採水口連絡用インターホン）
（総合外来センター1階 防災センター）

5. 初期消火班

初期消火には、消火器、屋内消火栓等の人が操作するものと
スプリンクラー設備のように自動的に消火するものがある。

（1）消火器による消火活動

種類と操作方法について

※消火器の種類

- ・本学には、粉末(ABC)消火器*及び強化液消火器が設置してあります。(すべての火災に適応。)

・消火器の標識の色別と性能について

*粉末消火器のABCとは、国で決められている規格のこと。
 どのような火災に対応できる薬剤なのかということを表しています。



標識の色別	火災の区分	主な適応火災
白	普通火災 (A)	木材・紙・繊維類の火災に有効
黄	油火災 (B)	ガソリン・重油・灯油等の液体燃料の他、 動植物油等の火災に有効
青	電気火災 (C)	電気火災、電気設備の過熱、 ショート等による火災に有効

※消火器の有効射程距離と噴射時間について

- 粉末消火器 10 型 …… ・有効な射程距離 3～6メートル
 ・噴射時間 約16秒
 強化液消火器 3 型 …… ・有効な射程距離 3～7メートル
 ・噴射時間 約24秒

<粉末消火器>

<強化液消火器>



- ・ 間近に設置してある消火器を利用し、
(出来るだけ多く火元近くに集め、)
連続して集中的に使用する。



- ・ 消火作業は、①まず避難路を確保し、
有効射程距離（一般的な消火器の場合は、
3～5 m）を考え、危険が及ばない程度
に出来るだけ火元に近づく。

②煙、火災等で受傷しないように姿勢を低くし、
煙に惑わされないよう火点に向かって手前から
火元に向けて、ほうきで掃くように操作し、消火薬剤を放射する。
又、吹き返しや燃えているものが飛び散ることがあるので注意する。

- ・ 煙は、熱気や有毒な成分を含んでいるので、注意する。
- ・ 消火活動のため、扉を開ける場合は、ドアを盾にした面に立ち、徐々に開放する。絶対に開口部の正面に立たないこと。
(不用意に開口部をあけると燃焼に必要な酸素が供給され、爆発的な燃焼を起こすことがある為)
- ・ 消火器による初期消火時間の目安として「炎が天井面に達する前までの間」とする。
- ・ 炎や熱気で室内に入れない場合や施錠されて内部進入できない場合は、
粉末(ABC)消火器を使用し、出入り口や窓など隙間等から放射する。
(外気が勢いよく流入する場所を選び、粉末消火剤を放射する。)
又、密閉消火を試みた場合は、消防隊(消防署)が到着するまで、出入り口の扉など開口部は開けないようにする。

- ・ 消火器で消火出来ないと判断した場合、直ちに③屋内消火栓設備（1号消火栓、消火用散水栓（補助散水栓）または、2号消火栓）による消火活動を行う。熱又は煙等の発生により、危険を感じたら無理せずにすぐ避難して下さい。（出火室内が延焼拡大中の場合など）

＜消火器の操作方法＞

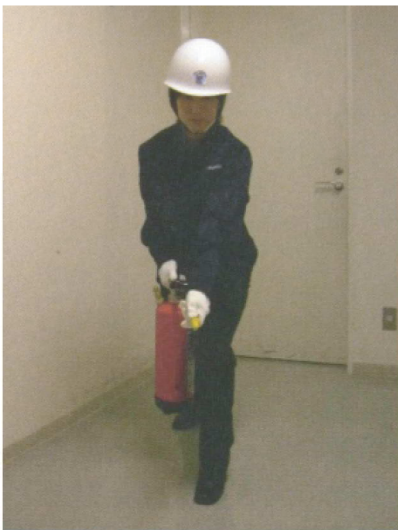
1. 火元まで搬送する。



2. 安全ピンを抜く。



3. ノズルを火点に向ける。



4. レバーを強く握る。
燃焼物に直接放射する。



(2) 屋内消火栓設備による消火活動

設備の種類と操作方法について

① 1号消火栓 … 原則として複数の者が協力して操作する。

放水をする人(A)と消火栓側のバルブを操作する人(B)の2人(以上)での操作方法

1. 起動ボタン（火災報知機）を押す。

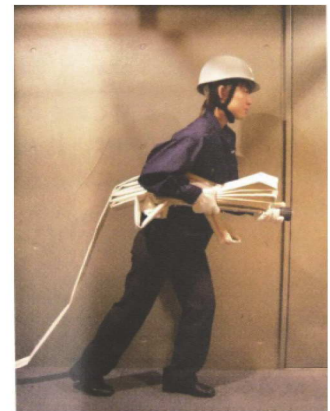
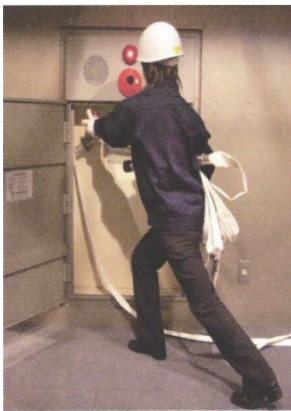
(消火ポンプが起動し、表示灯が点滅するのを確認する。)



2. 屋内消火栓箱の扉を開く。



3. (A)は、ホースを乱さないように素早く取り出し、ねじれがないように確認しながら延長し、出火場所へ移動する。放水準備をする。



4. (B)は、(A)からの「放水始め。」の合図で、消火栓箱内の開閉バルブを全開して送水する。その後、出火場所へ移動する。(A)の1～2歩後方でホースを持ち、補助する。



②消火用散水栓（補助散水栓）、2号消火栓

…… 1人での操作が可能(方法)

1. 筒先を持ち、バルブを全開にする。
(バルブを全開にすることにより、消火栓ポンプが起動する。)
2. ホースを持ちながら延長し、出火箇所へ向かう。

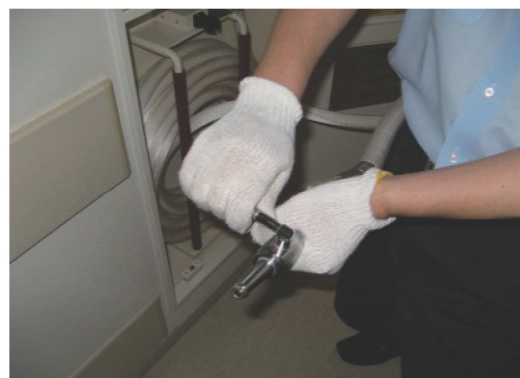


3. 放水準備が出来たら、ホースノズルの
コックを回し放水する。

レバーをひねり放水する。



(第1病棟の場合)



(総合外来センターの場合)

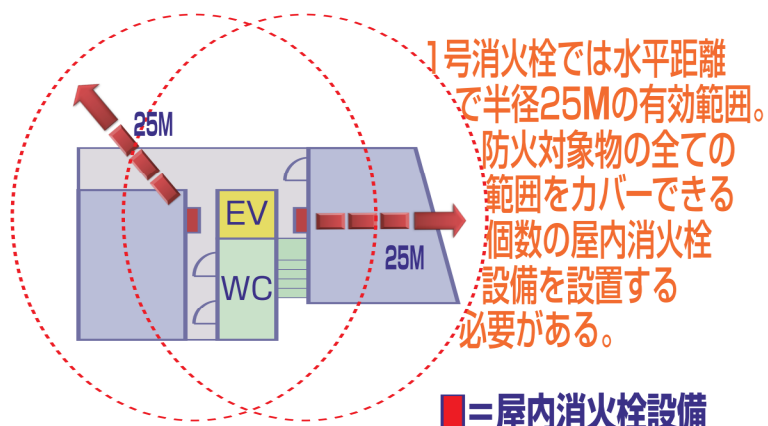
- ・屋内消火栓設備のポンプを停止する(放水を止める)場合は、起動ボタンを戻す。

※屋内消火栓の放水量、ノズル放水圧力の違い

- ・1号消火栓 …… 130リットル/分以上、0.17~0.7MPa
- ・消火用散水栓（補助散水栓）、2号消火栓
…… 60リットル/分以上、0.25~0.7MPa

※各屋内消火栓の基本警戒区域半径（消防法により規定）

フロア内の水平距離で、消火栓本体からの各範囲(m)で消火活動を行う能力がある。という事を示す。



- ・ 1号消火栓……半径25メートルの円
- ・ 消火用散水栓（補助散水栓）、 2号消火栓…… 半径15メートルの円

※ 1号消火栓、 2号消火栓、 補助散水栓の各基準による早見表

		1号消火栓	2号消火栓	補助散水栓
防火対象物	旅館、ホテル、病院、各種福祉施設	○	◎ 特に指導	○
	工場、倉庫、準危険物	○	×	○
	上記以外の防火対象物	○	○	○
屋内消火栓設備	警戒区域半径（基本）	25m	※15m (特例有、20m、25m)	15m
	最大同時使用個数	2個	2個	1～2個
	放水量(L/min)	130以上	60以上	60以上
	ノズル放水圧力(MPa)	0.17以上	0.25以上	0.25以上
	ノズル(φ8)の開閉装置	規定なし	開閉装置付	開閉装置付
	ホースの呼び径mm、長さ	40×30m	25×20m	25×20m
	加圧放水装置の起動方法	遠隔操作	操作に連動	操作に連動
	1個あたりの水源の水量	水源2.6cm ³ (水源最大2)	水源1.2cm ³ (水源最大2)	別途加算なし
	一人操作の必要性	規定なし	一人操作必要	一人操作必要
	主配管のうち立上り管	50mm以上	32mm以上	25mm以上の分岐管
	開閉弁の呼径	40mm	25mm	25mm
	開閉弁の床面からの高さ	1.5m以内	1.5m以内	1.5m以内
消火栓箱表面の表示	消火栓	消火栓	消火用散水栓	

※印は、ロビー、講堂、体育館等にあつては、最長25mまで、消火活動に支障のない未警戒部分にあつては、最長20mまで、令32条を適用して緩和しても差し支えない。（消防予第187号）

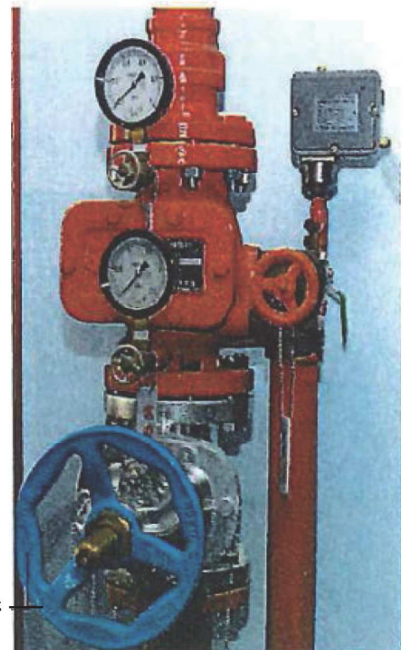
(3) その他の設備について

①スプリンクラー設備

- ・天井面等に配管を設けてあり、火災の熱によりスプリンクラーヘッドが開放し、自動的に散水する装置であり、散水開始までは特別の操作は不要。

また、火災が沈下した後は、応急止水方法として、各階にある制御弁のバルブを閉じて水損防止を図る。(制御弁の位置を事前に把握しておく。)

- ・スプリンクラーヘッド1個は、1分間に80ℓの放水量を有し、散水半径は、2.6m程度となっている。(標準)



制御弁

②排煙設備

設備の役割

- ・区域内に滞留した高濃度の煙を降下させることなく、床上にクリアーゾーンを確保する。
- ・熱をこもらせない。

操作方式、要領

- ・自然排煙方式 …… 人為的に窓を開放して排煙するもの。
手動開放装置が設けられている。
- ・機械排煙方式 …… 排煙機を作動させ、天井などに設けられた排煙から強制的に煙を吸い込み、屋外へ排出するもの。
1)手動開放装置によるもの 2)煙感知器連動によるもの 3)防災センター等で遠隔によるものの3つに大別される。

- 火災時に発生する煙を処理するために、必要に応じて排煙口を開放する。

(必要な排煙口のみを開放し、それ以外は閉鎖しておく。)

酸素を取り入れると火災がさらに悪化する可能性があるときは、中止すること。

- 手動開放装置は、居室の出入り口近くや廊下側等であり、使用方法などが表示されている。



手動装置

自然排煙による排煙口の例



排煙口の例



起動状況

空調設備の停止について

- 出火時において空調設備を継続運転することは、空調ダクトに火や煙が流入し、煙の拡散や火煙を吸い込むなどの危険性があるので、原則として停止させる。

6. 避難誘導班

- 避難誘導は、メガホン、携帯拡声器等を活用して行う。
- 誘導員は、出火階とその直上階を最優先して、通路の曲がり角、非常階段入口等へ配置につく。
- (出来れば濡らした)ハンカチ等を鼻と口にあて、煙を吸い込まないように姿勢を低くして避難するように指示する。(煙が充満している場合は、床スレスレの所に残っている空気を吸うようにする。)
- エレベーターは、火災による停電で停止する恐れがあるため絶対に使用しない。

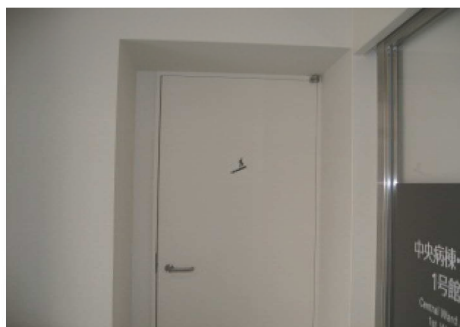


- 一時的な避難場所として、隣接する建物、同一階の水平に移動(例：中央病棟 ⇄ 東病棟)や火点下階層とし、最終的に出来るだけ安全に「地上」まで避難させる。
- 一度避難させた者は、再び建物内に戻らせてはならない。
- 誘導員は、逃げ遅れた者がいないかを確認し、延焼防止処置の為、最後に必ず防火戸を閉めて退避する。(自動式でも、火災の状況によっては自動閉鎖を待たず、手動で閉鎖する。)

＜防火戸（常時開）＞



＜防火戸（常時閉）＞



＜避難口誘導灯 緑地に白絵文字＞



(最終避難口及び避難口となる
出入口の位置の表示)

＜通路誘導灯 白地に緑絵文字＞



(避難方向の表示)

＜救助袋＞



(総合外来センター)

＜避難はしご＞



(中央校舎東側)

＜避難はしご＞



(中央病棟)

＜屋外避難階段＞



(糖尿病センター)

7. 大地震発生時(震度5弱以上を対象)の対応

大地震が発生した時は冷静な行動が必要です。

震度が観測されたとき、揺れ等の状況(概要)は以下の通りです。

震度と揺れ等の状況(概要)

0 **[震度0]**
人は揺れを感じない。



1 **[震度1]**
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



2 **[震度2]**
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。



3 **[震度3]**
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。



4 **[震度4]**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。



6弱 **[震度6弱]**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が高い 耐震性が低い


5弱 **[震度5弱]**

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



6強 **[震度6強]**


- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い 耐震性が低い

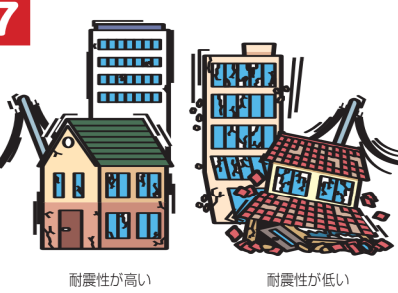
5強 **[震度5強]**

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



7 **[震度7]**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



耐震性が高い 耐震性が低い

(気象庁震度階級関連解説表より引用)

地震が起きたら、あわてず、まず身の安全を!!

【身の安全の図り方】

テーブルの下や物が「倒れてこない」、「落ちてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、姿勢を低くする。



・ テーブルなどの足を保持して身の安定を図る



・ 手すりがある場合には、手すりにつかまり姿勢を低くする
・ 手すりがない場合は、四つ這いになる

・ 安定がなくなり、座ったまま転倒する可能性があるため、完全には座らない

- ・ 窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れる。
- ・ 頭を保護し、丈夫な机の下など揺れがおさまるまで安全なところで待機する。
- ・ 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口の確保をする。
- ・ 実験中など火気を使っていたら、火を消す。又は、揺れがおさまってから、あわてず火の始末。

揺れがおさまってから、

- ・冷静に落ち着いて、建物を確認し、自分の身が安全な範囲で初期消火、応急手当をする。
- ・自分が負傷した場合は、大声で助けを呼ぶ。存在(生存)を知らせる。
- ・周囲に協力を呼びかけ、助け合いながら負傷者を救助。

- ・避難時、誘導指示に従って行動する。1階から避難させる。
むやみに外に飛び出さない。
- ・エレベーターを使わず、階段で屋外へ。
- ・タオル、ハンカチ等で口を覆う。
- ・避難のときは、押さない、走らない、しゃべらない、戻らない。

- ・デマや噂に惑わされず、正しい情報を得るように努力する。
- ・家族の安否確認、自分の安否連絡。災害伝言ダイヤル171を使用。

その他

余震、火災防止への対応(ガス漏れ対策、電気火災への対策)

- ・窓、ドアを開けて避難ルートを確保する。
- ・ガスの元栓を閉める。電気プラグを抜き、スイッチを切る。

日常の準備として

- ①最寄りの避難階段の位置、消火器の設置場所はどこか。
- ②一時避難場所や広域避難場所への避難経路等の確認。
- ③家族との連絡方法は決めているか。
- ④職場関係者の緊急連絡先の確認。
- ⑤備品、家具、ボンベ、薬品棚等の転倒防止の実施。

8. 安否確認、災害用伝言ダイヤル



・伝言の録音方法

1. 「171」にダイヤルします。
2. 「1」をダイヤルします。
3. ご自分の電話番号を市外局番からダイヤルし、ガイダンスに従い録音して下さい。

・伝言の再生方法

1. 「171」にダイヤルします。
2. 「2」をダイヤルします。
3. 安否情報等を確認したい相手の電話番号を市外局番よりダイヤルします。

(NTT東日本ホームページより引用。
ポケットガイドを防災保安部イントラに
掲載しました。携帯用にご活用ください。)

9. 火災・大規模災害発生時の河田町キャンパス部門別本部設置場所など

河田町エリア (03-3353-8112) 部門別本部設置場所 等

H26.6.19

部門別	主な管轄建物	本部長	本部設置場所	本部内線番号等	一時避難場所	帰宅困難者留め置き場所
1 法人対策室		理事長	総合外来センター 1階防災センター (防災保安部)	短縮111 (21199) 21196		
2 教育部門	医学部・臨床講堂・ 看護学部・佐藤記念館・ 体育館・ (大東キャンパス・ 白河セミナーハウス)	学 長	中央校舎1階 会議室	22185 (会議室) 22111 22112	・医学部： ⑤第1病棟東側駐車場 ・看護学部： ④看護学部中庭	TWIns 連携施設
3 研究部門	先端生命医科学 センター (TWIns)・ ハイテクリサーチ センター	先端生命 医科学セン ター所長	先端生命医科学 センター2階 研究業務管理課	66203 66205	⑥総合外来センター 北側エリア	TWIns 連携施設
	総合研究棟(旧本部棟)	総合研究所 所 長	総合研究棟4階 事務室	30421		総合研究棟内
4 病院部門	各病棟, 各外来・旧臨 床講堂・第2別館・ 外科医局棟・旧MR検査 棟・仮研究棟・旧放射 線治療棟・別館	病院長	第1病棟3階 第一会議室	20381 (会議室) PHS 29014 (業務管理課)	①総合外来センター 南エントランス ②西病棟B前 タクシー乗降場 ③中央病棟前駐車場	・総合外来センター ・第1病棟
5 本部・ その他部門	本部/女性生涯教育支 援センター・弥生記念 講堂・心研研究部・ 旧巴一寮・南別館・ 第3別館(旧独身寮)・ 保育所	総務部長	本部/女性生涯 教育支援センター 3階事務室エリア	68311 68312	⑥総合外来センター 北側エリア	本部/女性生涯 教育支援センター
6 膠原病 リウマチ 痛風センター	膠原病リウマチ痛風 センター本部・ (NSビル)	膠原病リウマチ 痛風センター 所 長	膠原病リウマチ 痛風センター 1階事務室	34100 34101	⑦膠原病リウマチ 痛風センター 1階駐車場	膠原病リウマチ 痛風センター 1階待合室
7 女性生涯 健康センター	医局・外来	女性生涯 健康センター 所 長	外来1階 (パークホームズ 新宿若松町ビル)	39921 39923	外来1階(パークホームズ 新宿若松町ビル)	外来1階 (パークホームズ 新宿若松町ビル)
8 健康保険組合	健保会館	健康保険組合 理事長	健保会館1階 事務室	7101 7103	健保会館	健保会館

10. 避難場所地図(防災保安部イントラ参照)

(1) 河田町キャンパス 一時避難場所

一時避難場所

- ①総合外来センター南エントランス前
- ②西病棟B前タクシー乗降場
- ③中央病棟前駐車場
- ④看護学部中庭
- ⑤第1病棟東側駐車場
- ⑥総合外来センター北側エリア
- ⑦膠原病リウマチ痛風センター駐車場

辺りの比較的 안전한場所に避難し、
落ち着いてから広域避難場所へ移動
するようにしましょう。



別図1-1



(2) 新宿区広域避難場所

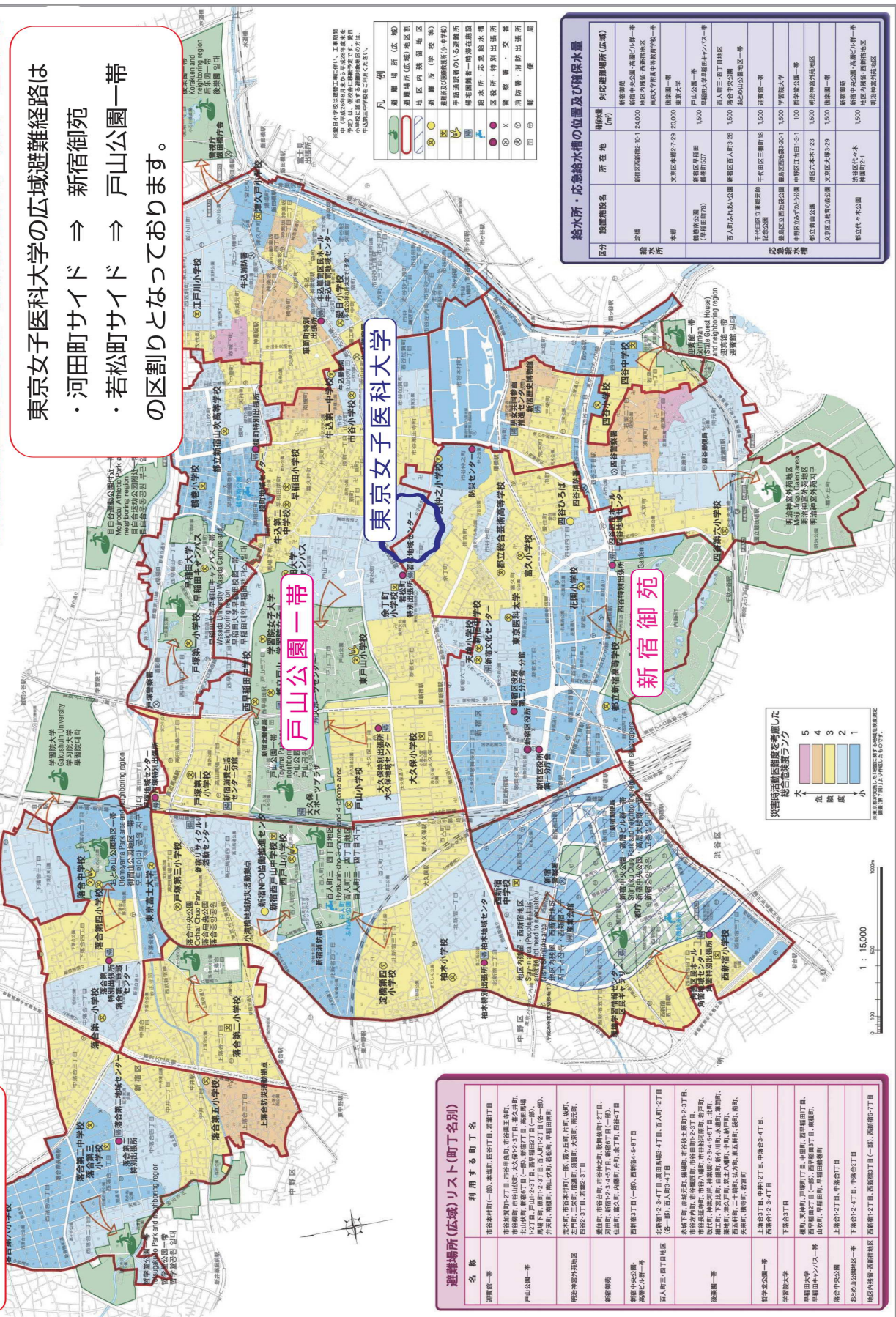
- ・ 若松町地域⇒戸山公園一帯
- ・ 河田町地域⇒新宿御苑

新宿区避難場所(広域)地図

東京女子医科大学の広域避難経路は

- ・ 河田町サイド ⇒ 新宿御苑
 - ・ 若松町サイド ⇒ 戸山公園一帯
- の区割りとなっております。

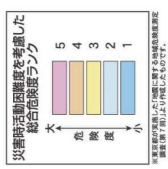
避難経路



凡 例

避難場所(広域)地区部	避難場所(広域)地区部
避難場所(学校等)	避難場所(学校等)
避難場所(特別出張所)	避難場所(特別出張所)
避難場所(公民館)	避難場所(公民館)
避難場所(公園)	避難場所(公園)
避難場所(公民館)	避難場所(公民館)
避難場所(公園)	避難場所(公園)
避難場所(公民館)	避難場所(公民館)
避難場所(公園)	避難場所(公園)

区分	設置施設名	所在地	建設年	対応避難場所(広域)
給水所	新宿区立第一小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第二小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第三小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第四小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第五小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第六小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第七小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第八小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第九小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第十小学校	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
防災倉庫	新宿区立第一防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第二防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第三防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第四防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第五防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第六防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第七防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第八防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第九防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10
	新宿区立第十防災倉庫	新宿区高野町1-10	20,000	新宿区高野町1-10

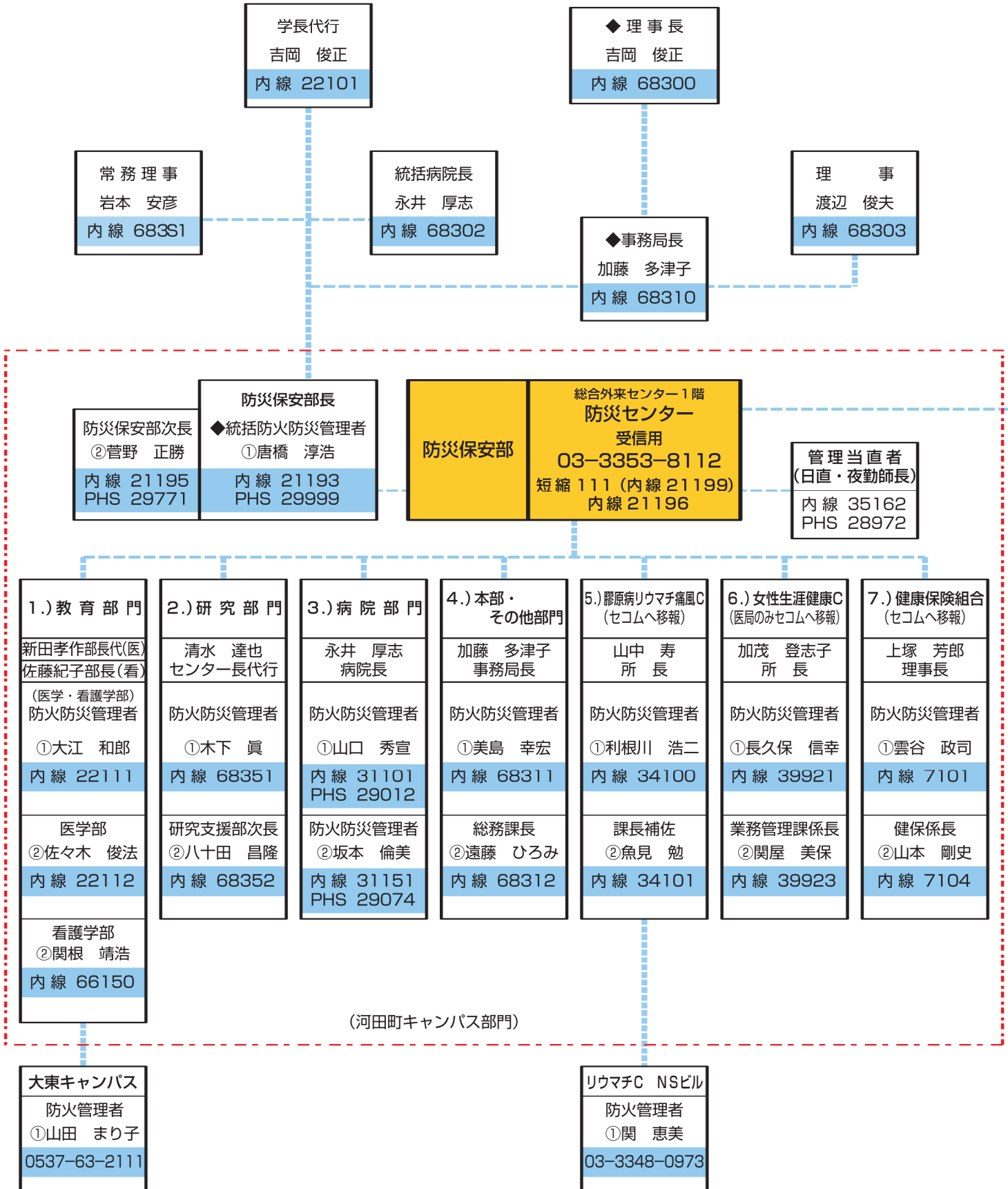


避難場所(広域)リスト(町丁名別)
避難場所(広域)地区部 新宿区立第一小学校 新宿区立第二小学校 新宿区立第三小学校 新宿区立第四小学校 新宿区立第五小学校 新宿区立第六小学校 新宿区立第七小学校 新宿区立第八小学校 新宿区立第九小学校 新宿区立第十小学校
避難場所(学校等) 新宿区立第一小学校 新宿区立第二小学校 新宿区立第三小学校 新宿区立第四小学校 新宿区立第五小学校 新宿区立第六小学校 新宿区立第七小学校 新宿区立第八小学校 新宿区立第九小学校 新宿区立第十小学校
避難場所(特別出張所) 新宿区立第一小学校 新宿区立第二小学校 新宿区立第三小学校 新宿区立第四小学校 新宿区立第五小学校 新宿区立第六小学校 新宿区立第七小学校 新宿区立第八小学校 新宿区立第九小学校 新宿区立第十小学校
避難場所(公民館) 新宿区立第一小学校 新宿区立第二小学校 新宿区立第三小学校 新宿区立第四小学校 新宿区立第五小学校 新宿区立第六小学校 新宿区立第七小学校 新宿区立第八小学校 新宿区立第九小学校 新宿区立第十小学校
避難場所(公園) 新宿区立第一小学校 新宿区立第二小学校 新宿区立第三小学校 新宿区立第四小学校 新宿区立第五小学校 新宿区立第六小学校 新宿区立第七小学校 新宿区立第八小学校 新宿区立第九小学校 新宿区立第十小学校

11. その他

火災、大規模災害発生時の緊急連絡網

*大規模災害発生時【東京都(伊豆、小笠原諸島等を除く)で震度5弱以上、首都圏(千葉、神奈川、埼玉、山梨、群馬、栃木、茨城)、静岡、福島で震度6弱以上)、**本学施設の火災発生**】は総合外来センター1階 防災センターに法人対策室を立ち上げ、法人対策室メンバーのうち◆印の方は、必ず集合すること。



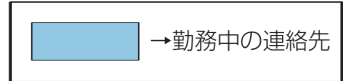
取扱注意

基本的な連絡網を示す。

- *各部門内では別途連絡体制表を作成のこと。
- *本院の防災センターは、女子医大全ての施設の情報収集し、伝達する。
- *第一連絡者①が不在時は、第二連絡者②に連絡する。

各関連施設間の連絡

- ・各施設から本院の防災センター（総合外来センター1階）へ連絡する。
- ・本院防災センターは、発生事例により各関係者、部署へ連絡する。



河田町キャンパス内の連絡体制

- ・新市区震度5強以上の場合、可能な職員は、河田町キャンパスに集合。
- ・防災センター(防災保安部)が中心となり、各部門防火管理者に連絡する。
- ・夜間、日、祝祭日においては、管理当直者(日直・夜勤看護師長)は連絡補助を行い、防災センターと連携する。
- ・各部門内部の連絡網は、別途決定すること。

東医療センター 日暮里クリニック	八千代医療センター	成人医学センター	青山病院	青山女性医療 研究所クリニック	東洋医学研究所	看護専門学校
上野 恵子 病院長	寺井 勝 病院長	三坂 亮一 所 長	長原 光 病院長	加茂 登志子 所 長	川島 眞 所 長	高木 耕一郎 校 長
防火防災管理者 ①瀧田 祐一郎 03-3810-1112 内線 4435	防火防災管理者 ①高萩 繁行 047-458-6000 内線 2430	防火防災管理者 ①田野井 哲夫 03-3499-1914 内線 2288	防火防災管理者 ①田野井 哲夫 03-5411-8118 内線 3151	防火防災管理者 ①長久保 信幸 03-5411-7191	防火防災管理者 ①鳥羽 和行 03-6864-0821	防火防災管理者 ①山口 健一 03-3894-3371
次 長 ②杉本 勝則 03-3810-1112 内線 4432	次 長 ②飯田 善昭 047-458-6000 内線 2443	係 長 ②尾淵 誠一郎 03-3499-1914 内線 2122	業務管理課長 ②粉川 佳之 03-5411-8118 内線 3153	業務管理課係長 ②鈴木 真理子 03-5411-7191	業務管理課係長 ②首藤 学 03-6864-0823	主 事 ②小川 悦代 03-3894-3371

河田町キャンパス消防用設備一覧

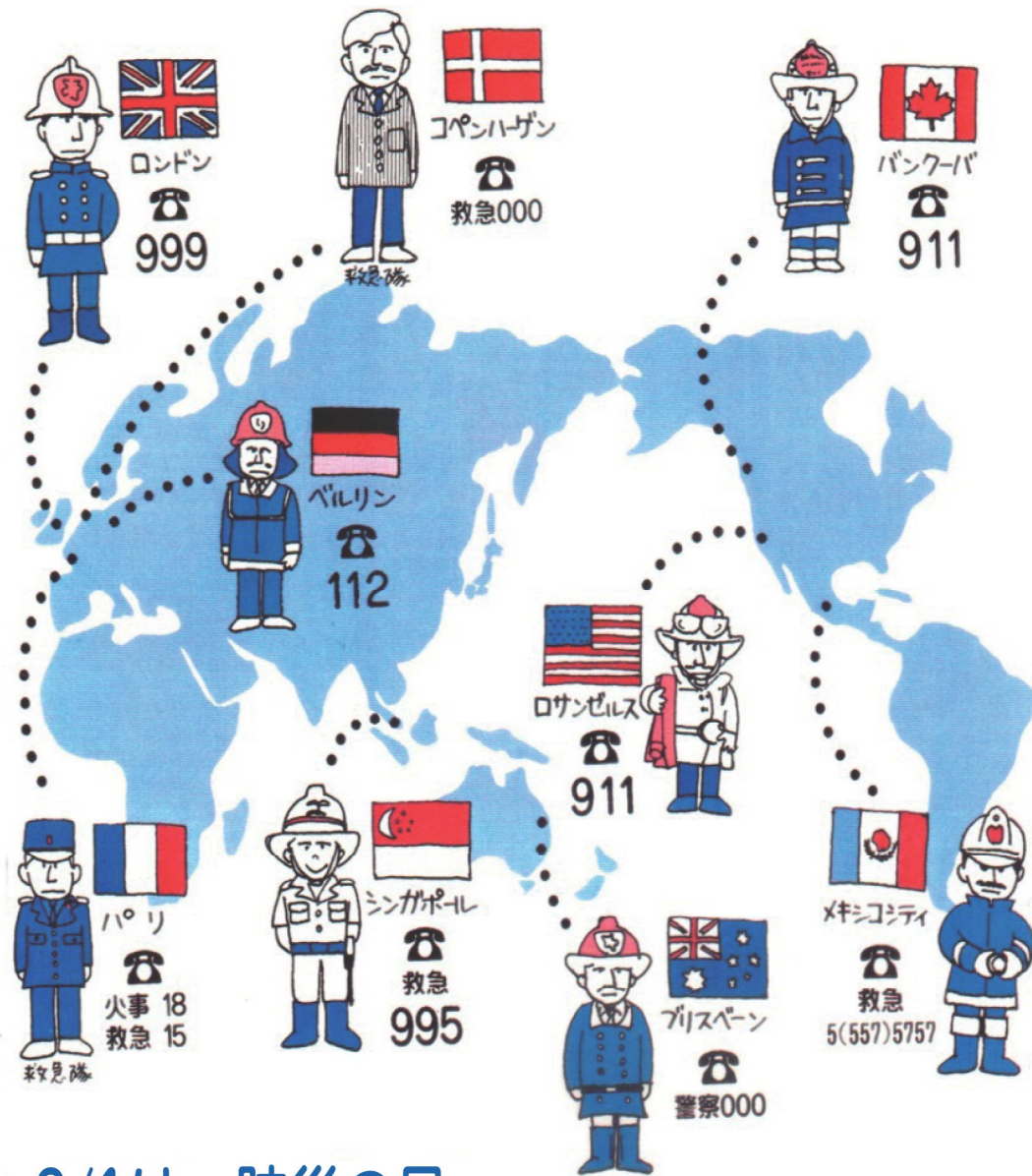
建 物 名	消防法上届出の 建築用途	消 防 用 設 備											
		感知器	発信機	非常電話	防火戸	消火器	消火栓	スプリンクラー	誘導灯	防排煙	避難器具	ガス漏れ	固定消火設備
総合外来センター	病院(6)項イ	○	×	○	○	○	○ 散水栓	○	○	○	○	○	○
第1病棟	病院(6)項イ	○	○	○	○	○	○ 散水栓	○	○	○	○	○	○
総合外来センター～糖尿病センター間の3階渡り廊下	病院(6)項イ	○	×	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×
西病棟A	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○ 一部	○	×	×	○	×
西病棟B	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○ 一部	○	×	×	○	○
糖尿病センター・弥生記念講堂	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中央校舎	大学(7)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	×	○
北校舎	大学(7)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×
佐藤記念館	大学(7)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	○
心研究部	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
中央病棟	病院(6)項イ	○	消火ポンプ 起動専用錠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東病棟	病院(6)項イ	○	消火ポンプ 起動専用錠	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
都道横断地下渡り通路	病院(6)項イ	○	×	×	○	○	×	○ 一部	○	○	×	×	×
糖尿病センター～中央病棟間の3階渡り廊下	病院(6)項イ	○	×	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×
1号館	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×
2号館	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×
旧臨床講堂	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	×
旧放射線治療棟	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	○	×
中庭機械棟	病院(6)項イ	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
中央病棟～仮研究棟渡り廊下(第2別館・仮研究棟)	病院(6)項イ	○	○	×	×	○	×	○	○	×	×	×	×
1号館渡り廊下(売店棟、 いこいの部屋、クリーニング店含む)	売店等(16)項イ 通路15項	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	×
総合研究棟(旧本部棟)	事務所等(15)項	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○
南病棟	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	○ 一部	○	×	×	×	×
仮研究棟	事務所等(15)項	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×
旧MR検査棟	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×
別館	事務所等(15)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×
第2別館	事務所等(15)項	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×
保育所	幼稚園・特別支援 学校(6)項ハ	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×
南別館	事務所等(15)項	○	○	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×
外科医局棟	事務所等(15)項	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×
本部/女性生涯教育支援センター	複合用途 (16)項ハ	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×
看護学部第1校舎	大学(7)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	×	×
看護学部第2校舎	大学(7)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×
看護学部第3校舎	大学(7)項	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×
旧巴一寮	事務所等(15)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×
ハイテクリサーチセンター	事務所等(15)項	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×
膠原病リウマチ痛風センター	病院(6)項イ	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	×	×
女性生涯健康センター医局	事務所等(15)項	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
先端生命医科学センター(TWIns)	研究所施設等 (15)項	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○
第3別館(旧独身寮)	事務所等(15)項	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×

連結 送水管	採水口	消防水利	非常照明	非常 コンセント	自家発電	非常放送	発 災 時 の 現場発報方式	受信機設置場所	監視場所	受信機型式									
○	○	○	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)	総合外来センター 1階 防災センター	総合外来センター 1階 防災センター ※河田町側の 棟別火災警報 の確認も可	能美防災 R型(FCRG094EF)									
○	○	×	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)												
×	×	×	○	×	×	○	非常放送(音声警報) (一斉)												
○	○	×	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)												
○	○	×	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)												
○	×	×	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)												
○	×	×	○	×	○	×	地区ベル(一斉)												
○	×	×	○	×	○	×	地区ベル(一斉)												
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)												
×	×	×	○	×	○	×	地区ベル(一斉)												
○	○	○	○	○	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)	中央病棟 1階 防災センター	中央病棟 1階 防災センター ※若松町側の 詳細火災情報 (火災表示窓) を確認可	能美防災 P型1級(FAP174)									
○	×	×	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)												
×	×	×	○	×	×	○	非常放送(サイレン) (出火階、直上階)												
×	×	×	○	×	×	○	非常放送(サイレン) (出火階、直上階)												
○	×	○	○	×	○	○	地区ベル(出火階、直上階)												
×	×	×	○	×	○	○	地区ベル(出火階、直上階)												
×	×	×	○	×	×	○	地区ベル(出火階、直上階)												
×	×	×	×	×	×	×	地区ベル(出火階、直上階)												
×	×	×	×	×	×	×	地区ベル(一斉)												
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)												
×	×	×	×	×	×	×	地区ベル(出火階、直上階)												
○	×	×	○	×	○	×	地区ベル(一斉)	南病棟1階 守衛室 (中央病棟防災に移報) 板研究棟2階 男子当直室 (中央病棟防災に移報) MR棟1階 旧操作室 (中央病棟防災に移報) 玄関1階 ELVホール (中央病棟防災に移報) 第二別館1階 給湯室 (中央病棟防災に移報) 保育所1階 (中央病棟防災に移報) 南別館4階 (中央病棟防災に移報) 外科医局棟2階 事務室 (中央病棟防災に移報)	西病棟A1階保安室・ 外来棟/防災センター	能美防災 P型1級(FKG177)									
○	×	×	○	×	○	×	地区ベル(出火階、直上階)				看護学部第1校舎 (第1校舎より 西A1階保安室・ 外来棟/防災 センター・監視室、 設備課へ移報)	能美防災 P型1級(FCS120)							
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)						能美防災 P型1級(FCS113-D型)						
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)							能美防災 P型1級(FAP129)					
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)								ホーチキ P型1級(RPA-A24B)				
×	×	×	×	×	×	×	地区ベル(一斉)									沖電気 P型1級(FFP-311)			
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)										能美防災 P型1級(FCS129A)		
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)											能美防災 P型1級(P-18)	
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)												能美防災 P型1級(FAP115)
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)												
×	×	×	×	×	×	×	地区ベル(一斉)	ニッタン P型1級(PR-1K)											
×	×	×	×	×	×	×	地区ベル(一斉)		能美防災 P型1級(FAP117A-A)										
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)			ニッタン P型2級(PR2MS-5L)									
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)				ニッタン P型1級(LPM1-NLA)								
×	×	×	○	×	×	×	地区ベル(一斉)					能美防災 P型1級(FAP169A)							
×	×	×	○	×	○	○	地区ベル→非常放送 (音声警報)(一斉)						セコム 監視センター	能美防災 P型1級 (FCSJ104N-B1-30L)					
×	×	×	×	×	×	×	なし								能美防災 受信機無し 直接セコム通報				
○	○	○	○	×	○	○	非常放送(音声警報) (一斉)									当該建物	能美防災 R型(FCRGJ001)		
○	×	×	×	×	×	×	地区ベル(一斉)											能美防災 P型1級(FAP117A-A)	

◎夜間・休日などの連絡先

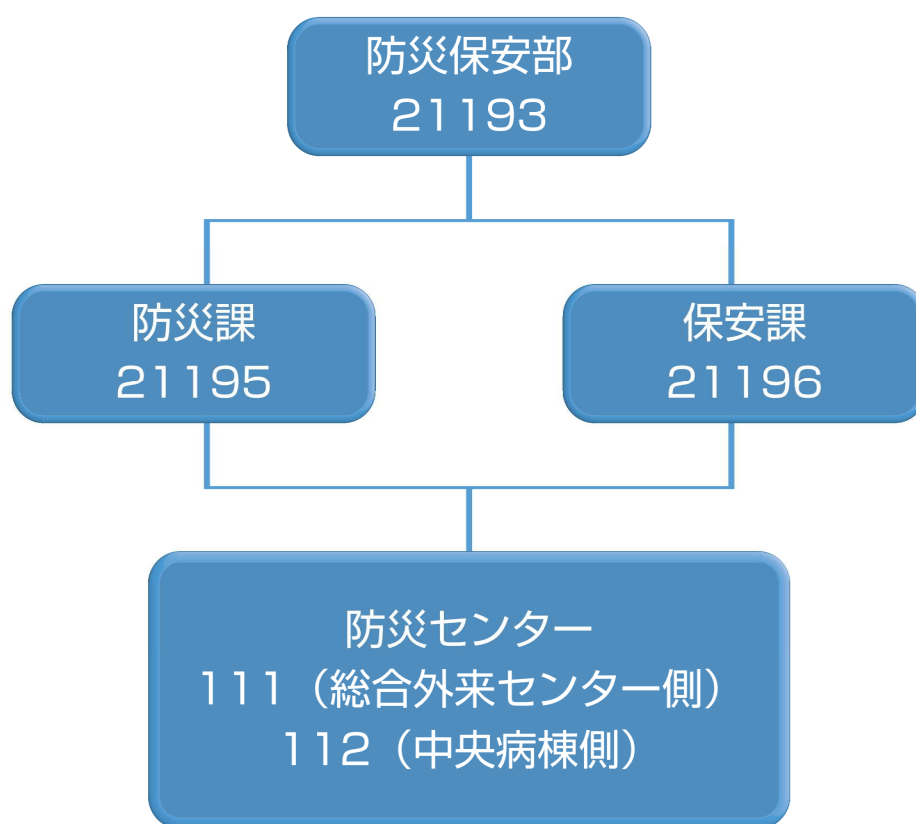
H26.6.19 修正

保安課・防災センター		管理当直室（日直・夜勤師長）	
建 物 名	内線 / (短縮)	建 物 名	内線 / (短縮)
総合外来センター 1階	21199 (111)	中央病棟 1階	35162 (112)
	FAX 21198 03-5269-7578		PHS 28972
<建物別 保安室の連絡先>			
建 物 名	内線 / (短縮)	建 物 名	内線 / (短縮)
本部/女性生涯教育支援センター 1階	68199 (118)	南病棟 1階	33199 (114)
第1病棟 地下2階	20099・20181	総合研究棟 1階(案内)	30181
西病棟A 1階	25199 (115)	総合研究棟 地下1階	30099
糖尿病センター 1階	27199 (117)	看護学部第1校舎 校門警備室	66159
中央校舎 1階	22199 (116)	看護学部第1校舎 地下 当直室	66050
中央病棟 1階(防災センター)	35199 (112)	先端生命医科学センター (TWIns) 1階 守衛警備室	66610
<建物別 機械室・電気室 連絡先>			
建 物 名	内線 / (短縮)	建 物 名	内線 / (短縮)
総合外来センター、 西病棟B	21091	西病棟A	21094・25091~2
心研研究部、第1病棟、 膠原病リウマチ痛風センター	21094	糖尿病センター、弥生記念講堂	21096・27091
		中央校舎、北校舎、佐藤記念館	21096・22091
1・2号館、南病棟、第2別館、 仮研究棟、旧MR棟、 旧放射線治療棟、南別館、 第3別館(旧独身寮) 弥生記念講堂の舞台装置	31091	中央病棟、東病棟、別館、 総合研究棟(旧本部棟)、 外科医局棟	・電気…35094 ・空調…35092(113)
先端生命医科学センター (TWIns) 1階 守衛警備室	66611	本部/女性生涯教育支援センター 看護学部、旧巴一寮 ハイテクリサーチセンター、	21096
<施設部各課 連絡先>			
部 署 名	内 線	部 署 名	内 線
施設課	38292~3	設備課	35092~3
電気課	21082~3	環境課	21062~3
<防災保安部の連絡先>			
防火・防災・消防等に関すること		防犯・警備・駐車場等に関すること	
建 物 名	内 線	建 物 名	内 線
防 災 課	21193~5	保 安 課	21196~7
	FAX 21192 03-5269-7453		FAX 21198 03-5269-7578



9/1は 防災の日

11/9は 119番の日



防災保安部作成

第一版 2008.4

第二版 2009.4

第三版 2012.4

第四版 2013.9

第五版 2014.4